



保 多 留

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】本物の気づかい

井上 裕之 著 ディスカヴァー携書

ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2026年6月1日 Vol. 284

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊 敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲1660番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

ニーサ NISA 貧乏

最近、SNSやメディアで“NISA貧乏”という言葉をよく耳にします。そして若い人の間で囁かれています。その他にも『とりあえずNISA』『とりあえずインデックスだ』とも言われています。

“NISA貧乏”は将来への不安から投資を始めることですが、「投資をすること」自体が目的化してしまい、今の生活が苦しくなってしまう状態を指すそうです。

NISA(少額投資非課税制度)は、利益に税金がかからない非常にお得な制度です。しかし、特に入金力を無理に高めようとする若い世代の間で毎月の積立額を無理に設定し、日々の食費や交際費を極端に削ってしまうという生活費の圧迫や貯金のほとんどを投資に回してしまうことで、急な病気や冠婚葬祭などの「いざという時」に動かせる現金(キャッシュ)がないという本末転倒な状況が起きています。そして、株価が下がった時に「自分の生活費が削られている」という恐怖を感じ、仕事や私生活にも支障が出る精神的な余裕の喪失も起こっています。

「オルカン(全世界株式)」や「S&P500」といったインデックスファンドへの投資は、多くの専門家が推奨する正攻法です。しかし、ブームによって「思考停止」で始めている人が増えているのも事実です。

インデックス投資は長期で見れば右肩上がりを期待できますが、短期的には30%～50%の大暴落もあり得ます。「みんながやっているから」という理由だけで始めると、暴落時にパニックになって損切り(売却)してしまうリスクが高まります。また、「インデックス投資＝絶対安全」という「正解」への過信もあります。投資に絶対はありません。

“NISA貧乏”に陥る人は、将来の豊かさを求めて今の豊かさを捨てすぎていると思います。投資の格言に「市場に居続けることが大事」という言葉がありますが、無理な入金設定は結局長続きしません。投資を行う上で一番大切なことはまず「目的」をしっかり決めることが



重要だと言えます。「何のために、いつまでに、いくら必要なのか」という出口戦略を決めることだと思います。それがなく、ただ数字が増減するのを眺めるだけのギャンブルに近い感覚になってしまいます。投資で首が回らなくなるためにまずは「目的」をしっかり決めてから始めましょう。

三人の石切り職人

あるところに、大きな建築現場で石を削っている三人の職人がいました。旅人が彼らに「何をしているのですか?」と尋ねました。

一人目の職人は、面白くなさそうな顔をして答えました。「見ての通り、石を削っているのさ。毎日毎日、重い石を運んで削るだけのつらい仕事だよ」。二人目の職人は、少し誇らしげに言いました。「私は、大きな壁を作っているのさ。この仕事のおかげで家族を養うための給料がもらえているんだ」。そして、三人目の職人は、目を輝かせながらこう答えました。「私は、未来の子どもたちが祈りを捧げるための歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ」と誇らしげに答えました。

この話は有名な寓話ですが、登場した三人は「全く同じ作業」をしていました。しかし、彼らが感じている「幸福度」や「仕事の意味」は全く違っていました。一人目は「労働」として石を削り、二人目は「生活」のために石を削り、三人目は「使命」のために石を削っていました。

これらは一見すると別々の業務ですが、「三人目の職人」の視点で見れば、すべて「誰かの未来や地域の風景をより良くするための大聖堂を造る」という一つの大きな物語のピースなのだと言えるのかもしれませんが。私たちは忙しいときほど目の前の作業に追われがちになってしまいがちですが、この物語のように「私は今、どんな大聖堂を造っているのだろう」と問いかけることで、その日の重荷が少しだけ“誇り”に変わる瞬間があるように感じます。



【座右の銘にしたい名言】



墓場で一番の金持ちになることは私には重要ではない。夜眠るとき我々は素晴らしいことをしたと言えること、それが重要だ。

スティーブ・ジョブズ (アメリカの実業家、アップル創業者)